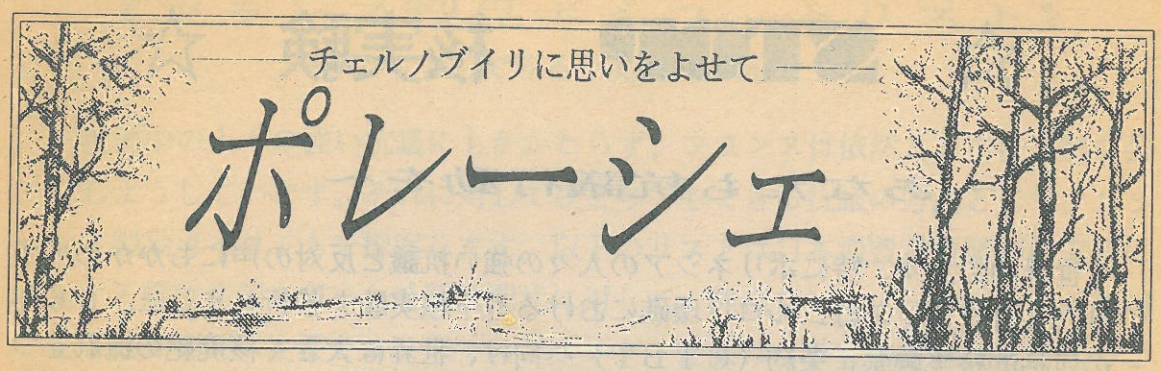


NO. 29 1995・9・30 チェルノブイリ救援・中部

チェルノブイリ事故１０周年を前に

移住基金のシール

チェルノブイリ救援・中部は１９９０年に中部地方のチェルノブイリ救援運動をしている団体を中心に結成され、チェルノブイリ被災者に、医薬品や医療機器などを中心に援助活動をしてきました。来年は、世界を震撼させたあのチェルノブイリ原発事故から１０年を迎えます。旧ソ連崩壊後、独立したとは言うものの、激しいインフレや通貨制度の改正など経済的混迷はしばらく続きそうです。それでも５年前と比べると、物資は徐々に流通するようになり、明るさも少しは見えて来ています。国家からの医薬品や各診断機器も徐々に供給されるようになってきています。

《事務局》〒４６６　名古屋市昭和区楽園町１３７－１－１０
チェルノブイリ救援・中部　代表：渡辺春夫
【郵便振替】００８８０－７－１０８６１０（旧番号 名古屋8-108610も可）
☎FAX:052-836-1073　（月・水・金・10:30～15:30）
（問い合わせは、お名前とシールの番号を明記し、返信用切手を同封の上、なるべく郵便でお願いします。）

☆ STOP 核実験 ☆

～あなたも抗議行動を～

世界中の人々、特にポリネシアの人々の強い抗議と反対の声にもかかわらず9月6日フランスはムルロワ環礁における地下核実験を強行しました。96年の包括的核実験禁止条約（CTBT）へ向け、世界は大きく核廃絶の流れをつくろうとしているこの時になんという暴挙と、悔しさと無念さが胸を突き上げました。

前号のポレーシェでお伝えしたように、チェルノブイリ救援・中部はすでに7月に《フランスの核実験の再開中止を求めます》という要請・抗議文をフランス大使館を通じ、フランス政府に送っています。また、9月に入り名古屋NGOセンターの呼びかけで、31グループ・個人とともに「核実験をやめて下さい！」という抗議文を採択して、中国政府（大使館）、フランス政府（大使館）に、また中止に向け強く働きかけるようにという要請文を日本外務省に送ることを決定しました。同時に、1人でもできる抗議行動を、ということで、フランス製品の不買や抗議のハガキを送ろうと呼びかけることになりました。しかし、9月6日、核実験は強行されました。それを聞いたNGO各グループの人々は、「核実験再開に抗議する中部地域市民団体協議会」を結成し、栄の公園に集まり、道行く人々に「これ以上核実験を続けさせてはいけない。ともにその思いを表明しましょう」と呼びかけました。

事務局スタッフは、チェルノブイリ被災者救援に関わる者として、「核開発であろうが、原発であろうが、核実験であろうが、ともかくこれ以上核に依拠し、核被害者＝ヒバクシャを増やしてはならない。核で環境を破壊してはならない。たった今でもその被害に苦しんでいる人々の救済こそ、同時代に生きる私たちのすべきことではないか」と訴えました。名古屋NGOセンターでは今後も核実験中止を呼びかける行動を続けていくことになりました。多くの人々の参加を呼びかけます。なお、具体的な行動予定については、下記へお問い合わせ下さい。

問い合わせ先
名古屋NGOセンター……☎FAX　052－937－3369
チェルノブイリ救援・中部事務所‥☎FAX　052－836－1073

《フランス製品ボイコットリスト》

～ひとりでもできる核実験への抗議～

世界中の人々の強い抗議にもかかわらず、フランスは依然として核実験を強行しようしています。それに対してひとりでもできる抗議の方法として、フランス製品ボイコットを提案します。以下のリストは日本消費者連盟が核実験に対する態度表明を求めた公開質問状に対して、無視ないしノーコメントの表明をしたブランド企業です。以下のブランド・企業は、核実験を容認したものと見なし、ボイコットの対象としました。

★最優先にボイコットしたいブランド・会社名

エールフランス、地中海クラブ、エルメス、イブ・サンローラン、ビック、クリスチャン・ディオール、アベンヌ、ジバンシイ、ルイ・ヴィトン、レミー・マルタン、ロエベ、ヘネシー、ゲラン、ファイン１２０，ゴロワーズ、プジョー、ミシェラン、ジタン、キャンピングガス、サロモン、テイラー・メイド、セブ、バカラ、セーブル、アクサ生命

あなたも維持会員になって下さい

チェルノブイリ救援の活動を続ける為に、事務局の維持費用が必要です。事務量が増え、新しいスタッフも仲間入りしました。是非、事務局維持会員になって下さい。

☆維持会員会費　10.000 / 年　（または、1.000円/月）

（※通信欄に　“維持会員費”　と記入して、救援・中部の口座にご送金を。）

お知らせ

◇救援・中部オリジナルテレフォンカード　一枚 1.000円/50度数

◆『絵はがき集』 1 セット5枚 300円（子どもたちからとどいた手紙や絵）

◇『たった一回の原発事故で』一冊 515円 ＋ 送料 51円 （救援・中部編　地湧社）

◆『とどけウクライナへ ～ 私たちの救援日記』 1.648円（坂東弘美著　八月書館）

◇現地ジャーナリスト・ネチポレンコさんと小児科医・ライサさんの来日講演録

一部 350円（専門家の解説付）　　救援・中部までお申し込み下さい！

ウクライナを訪問して！！ NO. 2

『95. ウクライナの夏－9年目の大地の人々－』

戸村　京子

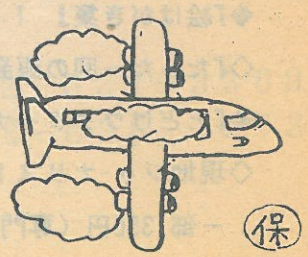
（病院・サナトリウムを訪ねて）

私たちは今回のウクライナ訪問中に7つの病院・医療施設－－ジトーミル州立小児病院、市立小児病院、州立成人病院、内務省病院、ナロディチ地区病院、バラニフカ地区病院および移住者の村の診療所と、チェルノブイリ被災者のための、医療設備を持つサナトリウムを3か所訪れました。

この内、州立・市立小児病院には私たちが贈った保育器が備えられ、病院関係者と日本からの暖かい心によって小さな命が大切に育まれていました。

また、市立小児・成人病院とバラニフカ病院では超音波診断装置が威力を発揮し、医師達は口を揃えて「とても助かっている」と日本の人びとに感謝の言葉を述べていました。粉ミルクも小児病院では貴重品のように扱われており、日本からのメッセージ・カードや折り紙などは、病院内のコーナーにきれいに飾られ、子供や母親達に日本の人々の心を伝えていました。

7月20日、移住基金事務所へ訪ねてきたドルゴヴァさんと息子さん。遺伝病のフェニルケトン尿症で特殊ミルクが足りなかったため神経系の障害がある。「救援・中部のガンィロンのおかげで、やっと普通学級へいけるようになりました」と感謝していた。



各病院とも新しい医療設備はあまり無く、日本の２０～３０年前の状態と同じといわれ、日本からの医療援助が期待される所以です。確かに経済的困難から設備面では遅れている訳ですが、私たちはどこの病院を訪れてもここの国が貧しいとは決して感じませんでした。

どこの病院も建物は落ち着きがあり、壁はモザイクタイルなどで美しく描かれ、子供達を楽しくさせる絵や工夫された表示、建物の周囲の緑や花など、病気のからだや心を癒す暖かさや心配りを感じました。日本の病院の、高度に発達した医療設備や医療技術ももちろん必要ですが、忙しさや機能性優先から日本人、日本社会が忘れてしまったものを私たちは今一度ウクライナに学ぶべきだと思いました。

チェルノブイリ事故からまもなく１０年になりますが、放射能による被害は子供達の甲状腺肥大やガン、白血病、新生児の遺伝的な問題など深刻さを増しています。私たちは同時代に生きるものとして、彼等の痛みや苦しさを共有し、人間的な触れ合いを通しての救援を続けていきたいと思います。

『わたしたちの涙で雪だるまが溶けた』

～こどもたちのチェルノブイリ～

これはチェルノブイリで被災した子どもたちの作文集です。事故からちょうど９年目の４月２６日に、北九州市の市民団体「チェルノブイリ支援運動・九州」によって出版されました。ベラルーシの小学校高学年から高校生までの子どもの作文５０編が収められています。

事故が、子どもたちに与えた影響の大きさ、苦しみの深さに胸が抉られる思いです。ぜひ、多くの方々に読んで頂きたいと思います。

発行者　チェルノブイリ支援運動・九州
発行所　梓書院　☎０９２－２７１－５２８８
定　価　１３００円　　Ａ５版　２４８ページ

★問い合わせ　〒８０５　北九州市八幡東区春の町１－３－１７日開荘２号
チェルノブイリ支援運動・九州　FAX☎０９３－６８１－１７８０

新連載　**10年目を迎えるチェルノブイリ**　第1回

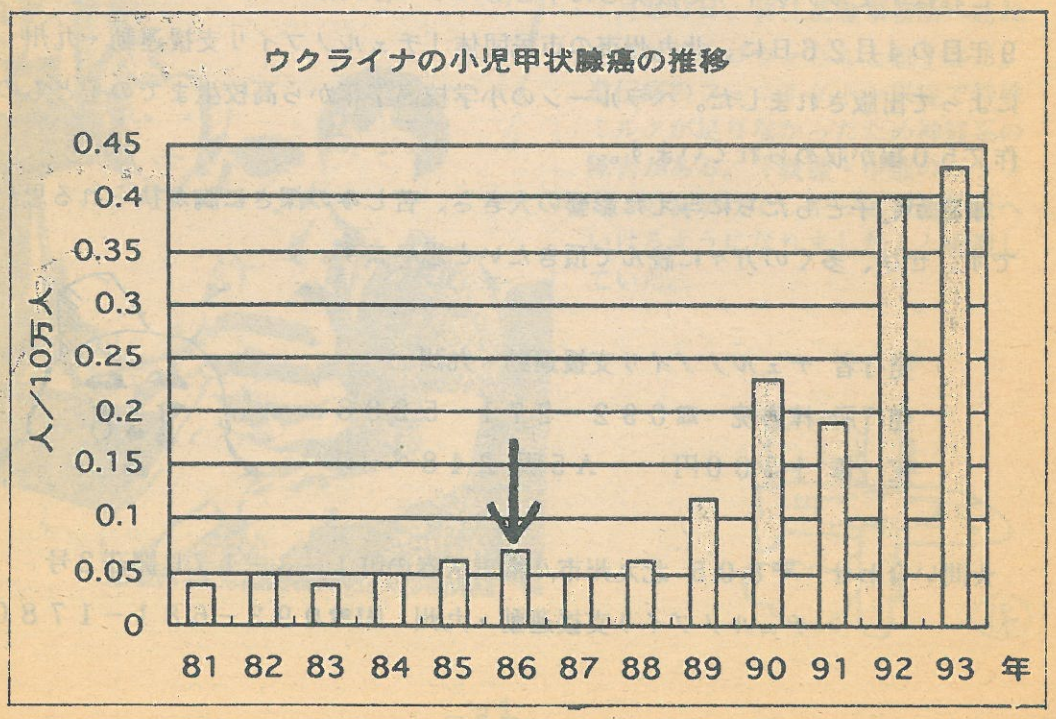
ウクライナの小児甲状腺癌

7月14日から25日までウクライナに行ってきました。州立小児病院や成人病院、内務省付属病院の他、チェルノブイリ省、保健省などの政府機関にも行き、現在の状態を伺いました。そして、もうじき10年目を迎えようとする原発事故の、人々に与える影響が次第にはっきりとその姿を現して来たことを実感しました。これから、そのいくつかを連載したいと思います。

まず始めは、小児甲状腺癌の増加です。事故直後に大量に放出されたヨウ素131と呼ばれる放射能は、成長期の子供達の甲状腺に蓄積しました。甲状腺がつくる成長ホルモンにはヨウ素が含まれており、放射性ヨウ素と区別出来ないからです。その結果、多くの子供達が甲状腺に異常を来たしています。ウクライナ全体では汚染地域に55万人の子供達が住んでいます。私達が援助対象としているジトーミル州の保健大臣パラモノフさんによれば、同州には約40万人の子供がいますが、そのうち6万人が汚染地域にすみ15000人が甲状腺の異常を訴えています。

こうした甲状腺異常の子供達のうち、何人かが甲状腺癌になります。下に示した図は1986年に原発事故が発生し、その4年後からはっきりと子供の甲状腺癌が増えていることを示しています。事故前の8-10倍にもなります。

（河田昌東）



国際児童画コンクール

展覧会『チェルノブイリの鐘』

――作品募集のお知らせ――

1986年ウクライナのチェルノブイリ原発で原子炉が爆発し、有害な放射能の雲がウクライナ、ベラルーシ、その他のヨーロッパ諸国にわたる広大な地域を汚染しました。そのために多くの大人や子どもがなくなり、チェルノブイリは20世紀の悲劇のひとつの象徴となりました。ウクライナのジトーミル市では、この日を記念して、国際児童画コンクール　展覧会『チェルノブイリの鐘』が開かれることになりました。主催は、ウクライナ文化省・チェルノブイリ省・ジトーミル市会場は、ジトーミル児童美術ギャラリーです。

これまで救援を続けてきた日本の子どもたちにも、ウクライナからコンクール参加の呼びかけがきました。みなさんの思いを絵に込めて、ウクライナへ届けませんか。作品は、チェルノブイリ救援・中部が現地へお届けします。

たくさんのご応募をお待ちしております。

募集要項

1. 画 題(テーマ)　「わたしと大人たち」「両親とともだち」「自然」
　「わたしの国」「わたしの国の人々の伝統、文化、歴史」
　「わたしの夢」
2. 参加児童の年令　5歳から15歳
3. 作 品　◆サイズ　60センチ×40センチ
　◆画 材　水彩・クレパス・クレヨン・パステル・テンペラ(油彩は不可)
　◆作品の裏面に活字体で以下を明記してください。できれば英語とローマ字で。(分からなければ日本語でも結構です。救援・中部が英語で併記します。)
4. 締め切り　1995年11月20日
5. 応募先　下記へ郵送または持参して下さい。
　〒500　岐阜市大門町12　小笠原 まや　☎058-265-3868
6. その他　展覧会の後、入選した作品をウクライナから借り受け、日本国内でも展示する予定です。

《チェルノブイリ○救援　スタディ○ツアー》　参加者募集のお知らせ

私達「チェルノブイリ救援・中部」は、発足してから今までの５年間、単に救援物資を現地に送るだけではなく、被災地の皆さんと、顔の見える（ハートｔｏハートの）交流を目指してきました。　そんな中、支援者の皆さんや、現地と文通をしている皆さんから、「是非、私も現地に行って、自分の目で確かめて来たい。」という声が多く寄せられています。

チェルノブイリは、来年の４月２６日で、原発事故から１０周年をむかえます。そこで、この度、私達スタッフは、下記のように＜チェルノブイリ・救援 スタディ・ツアー＞を企画することに致しました。 皆さんの参加を、心からお待ちしております。

記

1．期間

１９９６年4月１９日～4月３０日の間の９日間程度

2．募集人数

２０～２５名（スタッフ ４～５名を含む）

3．参加費用

約３０万円／人

4．スケジュール（案）

訪問地…小児病院・サナトリウム（ジトーミル）・チェルノブイリ博物館（ナロジチ）・チェルノブイリ原発・小学校・移住者の村・１０周年記念式典参加（キエフ）等。

このほか、市民との交流会・キエフ市内観光（聖ソフィア寺院、バレエ観賞）・バザール（ショッピング）等を計画中です。

（宿泊は、原則としてホテルですが、希望者が多ければ、ホームステイも準備致します。）

5．プレ企画

１１月から、プレ企画として、月２回、２時間の「ウクライナ講座」を開きます。

（講座の内容 ⇒ ウクライナの歴史・文化・ロシア語会話、ロシア料理教室、チェルノブイリ事故の被害と現状、救援活動について等）

（ツアー参加者は、原則として、受講が必要です。又、講座のみの受講も歓迎します。　受講は有料となります。）

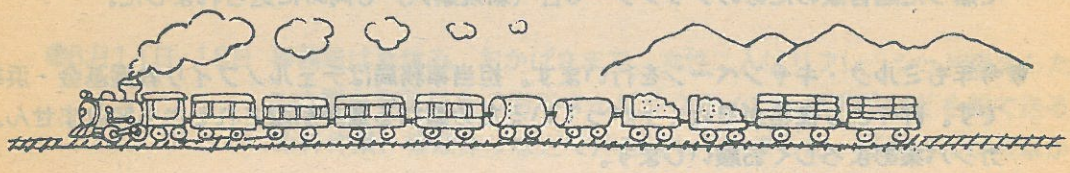
6．応募方法

参加を希望される方は、往復ハガキに、「住所・氏名・年令・性別・職業・電話番号」を明記して、チェルノブイリ救援・中部の事務所まで、申し込んでください。

（応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。）

申し込みの締め切りは、１０月末日です。

☆詳しくは、チェルノブイリ救援・中部　＜Tel.（052）836-1073 ＞までお尋ね下さい。



とどけウクライナへ

'95年ミルクキャンペーン

―チェルノブイリ事故１０周年をまえに―

前回のミルクキャンペーンは、阪神大震災の救援活動のために、キャンペーンを途中で打ち切りましたが、約２００万円の寄付が寄せられ、現地へ送り届けました。ジトーミル州立小児病院の院長は、粉ミルクは大変貴重なもので、「薬のように使用している」と語っています。

今年もまた粉ミルクを贈ります。皆様の温かい御支援をよろしくお願いします。今回のキャンペーンでで０―６ヶ月用の粉ミルクを２トン購入し，現地へ送る予定です。

＜キャンペーン期間＞

１９９５年１０月１日―１９９５年１２月３１日（３ヶ月間）

＜ミルク代の振り込みは＞

１口２０００円より。半口１０００円でもかまいません。

郵便局で郵便振り替え用紙に必要事項をご記入の上，下記あて振込んでください。

振込先　名称　チェルノブイリ救援・中部　　口座番号　00880-7-108610

（領収書の必要な場合は，振り替え用紙に裏書きしてください。後日領収書を郵送します。）

ポスターの請求やお問い合わせは，下記キャンペーン記事務局か，「チェルノブイリ救援・中部」事　務局にお願いします。

ミルクキャンペーン事務局　「チェルノブリ救援基金・浜松」

〒431-31　浜松市笠井町1299-2 代表　高井　信行　電話　053-435-1419

主催団体：「チェルノブイリ救援・中部」（電話　052-836-1073）

運営委員会報告

ウクライナ訪問団の各地での報告会も一段落、94年後期プログラム、そしてチェルノブイリ10周年へ向けての計画と準備など盛り沢山でした。

報告

♥浜松聖隷病院より寄贈された5台の保育器の修理も終わり、8／28発送のため名古屋港へ搬入しました。9月1日出港しオデッサ到着は10／9の予定。長野県中条村診療所から寄贈された超音波診断装置、岐阜の野中医院紹介で購入した超音波診断装置、これまで贈った超音波のためのプリンター6台（新規購入）も同時に送られました。

♥今年もミルク・キャンペーンを行います。担当事務局はチェルノブイリ救援基金・浜松です。昨年より価格が倍近く上がっているため贈れる量が制限されるかも知れません。カンパ集めよろしくお願いします。

♥国際児童画展「チェルノブイリの鐘」の作品募集要領が出来ました。10月1日より子供達の絵を募集します。ジトーミルでの展覧会が終わってから日本での展覧会も計画中。

♥94年度の第2次医師派遣事業が決まりました。岐阜県立病院の栗本先生（内科部長）、臨床検査技師の松浦さん、救援・中部スタッフの戸村さんが10月20日から現地の州立成人病院、内務省病院などを訪問の予定。

♥現地医師の日本での研修を行います。現地より4名の候補者が提案されていますが、受け入れのため様々な条件を検討中です。

♥名古屋ＮＧＯセンターの呼びかけで9／6フランスの核実験当日に名古屋で抗議行動をしました。

♥恒例のカード・キャンペーンを今年もやります。10／1より。　担当は一宮のメンバー。但し、カードの送り先は救援・中部事務局まで。

♥チェルノブイリ・スタディーツアーを来年の4月実施決定。プロジェクト・チームが企画案作成中です（別ページ参照）。手伝ってくださる方いませんか。

議題

主に10周年記念事業について。

♠朗読劇（ニーナ先生と子供達を招待して公演）は10月の委員会に決定を持ち越し。

♠来年10周年イベントとしてウクライナと日本で「広島・長崎」「チェルノブイリ」の映画上映会を行うことが現地の移住基金委員会との話し合いで決まりました。具体的作品について検討開始。

♠同じく来年、現地救援団体関係者の講演会実施が決まりました。講演者として移住基金委員会のワレリー・ピリプチュク氏（次期代表）を招待。

事務局日誌　95年8月-9月中旬の抜粋

●8月2日-30日　連日午後、戸村さんが事務局へ来て郵政省の国際ボランテイア貯金の書類作りと発送作業。アツイ、アツイ中を本当に御苦労様です。

●8月14日-18日　事務局は夏休み。おかげさまで、女性二人はリフレッシュ出来ました。この間も事務局長の河田さんはウクライナへ保育器などを船で送るための作業、書類作りなどで汗を流していました。新田さんが岐阜から中古のエコーを運んで下さる。アリガトウゴザイマシタ。

●8月21日　ボランテイアの中根さんが友人の原田さんと一緒にウクライナに送る衣類の選別や荷作りに、暑い中作業してくださる。若い女性二人のお手伝いで若やいだ雰囲気になる。

●8月28日　名港海運倉庫での荷出し作業に河田さん、山盛さんが朝から出る。伊那の原さんが中条村からいただいたエコーを車で運んで来て合流される。午後にやっと作業完了。

●8月31日と9月11日　事務局会議。渡辺代表、戸村さん、松浦さん（8／31のみ）を加えて主にウクライナへの医師派遣と今年、来年の医師派遣、医療研修などの事業計画やそのための作業の打ち合わせ。何事もスムースにいくほうが例外、という状況中で何とか事を運ぶ困難さを噛みしめながらの会議でした。

♣事務局からお願い！
読者の中で中古のワープロ（出来ればシャープ、その他でも構いません）と中古ＦＡＸを寄付してくださる方はいませんか。または格安でお譲り下さる方知りませんか？

竹内さんからの手紙

「チェルノブイリ？１０年近くも経って、もうみんな、慣れてきちゃったんじゃない？そりゃ廃炉にした方が良いとは、みんな思ってるだろうね。僕もチェルノブイリを廃炉にしたからってキエフで電気が使えなくなるとは思わないよ。けど、廃炉にするにはまた随分金がかかるって言うんでしょ？」（M君・男性２２～２３才、大学講師）「雨の前にはたいてい頭痛がして背中も痛むし、この頃皮膚病の症状もでてきて。でも医者によって、あの薬がいいとかこの薬がいいとか、言うことも違うし、高い薬を使ってみても効かないのよ」（Nさん・女性４５才、元チェルノブイリ原発職員、現在主婦）「このあたりの森には、気流の関係で、放射能が降らなかったという話です。」（Yさん・男性４５才、小学校教師。キエフから電車で１時間ほど離れた別荘の近くで、キノコを採りながら）以上、ここ一月ほどの間に、私が３人の知人に聞いた話の断片ですが、同じキエフに住んでも「チェルノブイリ」がその意識と生活に入る入り込み方は千差万別だと思います。（中略）

今年、ウクライナ国立アカデミー会員たちが編集執筆して出版された大判の学術的報告書中の汚染地図を見れば、セシウム１３７もプルトニウムの各種同位体もウクライナ全土（ルーマニア国境にまでかなりの汚染があり、ルーマニアの被災状況も気になりますが）に拡がり、キエフはセシウム１３７で１平方Kmあたり0,5～１キュリー、プルトニウムで同10～20マイクロキュリーの汚染範囲に区分されています。この学術書や、反原発の立場に立つ女性ジャーナリストがこの四月に出した「チェルノブイリ《内部資料》」という本も、一部書店に置いてありますが、とても売れ行き良好とは見えません。「知りたくない」というよりも、「知ったからってどうなるの、何ができるの」という心理、これは根深い政治不信につながっていると思います。そして人々の関心は「政治」よりも「経済」に向かいます。日本とちょっと似てるかな・・・などと私の勝手な連想を書き始めるとタダの床屋政談になるので止めます。

キエフは美しい秋に向かいます。お元気で。

（9月7日）